県中教研　社会科部報

№４７

発行所　福島県中学校教育研究会社会科研究部
発行人　大　橋　誠　寿
発　行　平　成　２６　年　３　月　１　日

内　　容

平成２６年度研究主題・副主題の解説……２～３
中教研県大会会津大会を終えて……　４
県大会会津大会に参加して……　４

２５年度の活動をふり返って

福島県中学校教育研究会社会科専門部長　**大橋　誠寿**

中教研５０周年にあたる，平成２５年度の社会科部会の活動をふり返ってみたいと思います。

１　充実した県大会，お世話になりました。

県中教研研究協議会会津大会社会科部会が 10 月 9 日（水），会津若松市立第三中学校を会場に開催されました。北会津支部長の澤崎俊哉校長先生をはじめ，オール会津で研究推進と大会運営にあたっていただき，他支部からの参加者は皆，会津の先生方の「おもてなし」の精神にあふれた大会運営に感激いたしました。深く感謝申し上げます。

公開されました３分野の授業においては，意欲的に授業に取り組む生徒の姿が印象的で，研究協議も活発に展開され，今後の授業に役立つ大きな成果を得ることができました。また，各支部における研究成果を共有することもでき，次年度の研究推進に繋がる指針を得ることができました。会場校の深谷哲三校長先生，授業をご提供いただいた３名の先生方に心から感謝申し上げます。

２　第52回東北社教研青森大会が開催され，本会から3名が参加しました。

平成 25 年 11 月 15 日（金），「社会の変化に対応し，生きる力を育む社会科教育」の大会主題のもと，八戸市立根城中学校を会場に東北社会科教育研究協議会青森大会が開催されました。本会からは，大玉中学校の渡邊健順校長先生，江名中学校の渡邉耕至先生，附属中学校の鶴巻厚保先生の３名の方々に参加していただきました。東北大会は２年に一度の隔年開催ですので，次回は平成 27 年度に山形市で開催され，平成 29 年度の第 54 回大会はﾛｰﾃｰｼｮﾝにより福島県で開催することになっています。

平成 26 年 1 月に郡山市で開催された県支部長会において，「東北大会は中教研の県大会と同時開催とする」ことが決定されましたのでご報告いたします。

３　全中社研大阪大会に1名が参加しました。

11 月 7 日(木)～ 8 日(金)に開催された全国中学校社会科教育研究大会大阪大会に附属中学校の村上淳先生に参加していただきました。

東北大会，全国大会への参加報告の詳細を，何らかの形で会員全員の皆様にに伝えたいと考えております。

４　円滑な研究推進のためにホームページを立ち上げます。

今年度から部報はメール配信とさせていただきます。次年度からは，より円滑な研究推進のために，ＦＫＳ内にホームページを立ち上げます。（立ち上げ準備完了しました。）大いに活用して研究実践に役立てて下さい。

平成２５年度福島県中学校教育研究会社会科研究部組織一覧

部　長　大橋　誠寿　　**副部長**　渡邊　健順・小川　共和・澤崎　俊哉・吉内　次夫・古山　隆一

支　部	支部長名	勤務校	支部	支部長名	勤務校
福　島	大　橋　誠　寿	蓬　莱　中	東　白　川	箭　内　貞　男	棚　倉　中
伊　達	家久来　三　典	月　舘　中	北　会　津	澤　崎　俊　哉	吾　妻　中
安　達	渡　邊　健　順	大　玉　中	耶　麻	長谷川　良　三	喜多方一中
郡　山	佐　藤　俊　彦	熱　海　中	両　沼	佐久間　武	西　山　中
岩　瀬	小　川　共　和	岩　瀬　中	南　会　津	石　本　浩　一	檜 枝 岐 中
石　川	鈴　木　豊	蓬　田　中	相　馬	吉　内　次　夫	中 村 一 中
田　村	加　藤　芳　宏	船 引 南 中	双　葉		
西　白　河	佐　川　尚　史	東　北　中	い　わ　き	古　山　隆　一	江　名　中

事務局　総務　村上　淳（附属中）　**庶務**　安田　雄生（下郷中）　**会計**　鶴巻　厚保（附属中）

研究主題及び研究副主題の解説

１　研究主題及び研究副主題

研究主題

自ら学び，社会にはたらきかける力を育成するための社会科の授業はどうあればよいか。

研究副主題

◇平成２４年度
社会的事象について追究する意欲を高める授業の工夫

◇平成２５年度
社会的事象どうしを関連づける力を育てる授業の工夫

◇**平成２６年度**
社会的事象を主体的にとらえ表現する力を育てる授業の工夫

２　平成２５年度の研究成果

(1) 県大会授業の概要

研究の２年目である本年度は，社会的事象どうしを関連づける力を育てる授業づくりに取り組んできた。

本年度の県大会は会津若松市立第三中学校を会場に開催され，３名の先生方によって副主題に迫るための授業が行われた。

授業者	単　元　名
鈴木佳子	アジア州（１年地理）
西尾祥子	産業の発達と幕府政治の動き（２年歴史）
真壁伸介	現代の民主政治と国の政治のしくみ（３年公民）

地理的分野では，「なぜたくさんのメイドインアジアがあるのだろうか」という学習課題を設定し，アジア各国と日本の貿易を関連づけ，自分の身の回りにアジア製品が多いことから，アジア州の経済成長をとらえる授業であった。

歴史的分野では，「田中玄宰と幕府の４つの改革を比べよう」という学習課題を設定し，会津藩と幕府の改革の共通点を見いだし相違点を比較することから，江戸時代の社会的背景を理解する授業であった。

公民的分野では，「三中のオープンスペースで何がおこなわれているのか」という学習課題を設定し，若松三中のオープンスペースが実際の選挙の投票所になっていることを導入とし，選挙の意義と国会を関連づけて，議会制民主主義の意義を考える授業であった。

(2) 研究２年次の成果

県大会での提案授業や研究協議，各支部での取り組みを通して確認されたことは以下の通りである。

① 単元構想図を作成することにより，社会的事象の関連性を把握することができ，単元で関連づける活動を位置づけるなど授業に生かせるようになった。

② 単元を通した効果的な学習課題により，生徒の追究意欲を持続させ，社会認識を深めることができるようになった。

(3) 今後の課題

今年度の研究実践を通して，明らかになった課題は以下の通りである。

① 社会的事象を多面的・多角的にとらえ，社会認識を深めるためには，単元を通して，生徒が「関連づける活動」を繰り返し行うような指導計画をさらに工夫する必要がある。

② 獲得した社会認識を深めるために相互評価するなど，言語活動について研究を深める必要がある。

研究３年次では，上記の成果と課題を踏まえて，副主題「社会的事象を主体的にとらえ表現する力を育てる授業の工夫」について研究を進めていく。

３　平成２６年度研究副主題の解説

(1) 研究主題との関連

現実の社会には，少子高齢化，地球環境，資源・エネルギー，貧困など様々な問題が存在する。特に福島県には，東日本大震災による津波や福島第一原子力発電所事故による被害，そして復興という大きな問題が存在する。将来生徒が社会の形成者となる時代も，生徒は様々な問題に直面するであろう。研究主題である「自ら学び，社会にはたらきかける力」を育成するのは，生徒が将来問題に直面したときに，その問題を解決する力の基礎を養うためである。

「自ら学び，社会にはたらきかける力」を，部報45号では「よりよい社会づくりのために自ら行動しようとする力」ととらえている。その力とは，よりよい社会をつくろうと「考える力」，社会にはたらきかけようとする「意欲」，考えを伝えるための「表現力」などで構成される。これらを育てるために，本年度の研究副主題で述べられている力を育成していく。

【主題・副主題関連図】

自ら学び，社会にはたらきかける力

↑

社会的事象を主体的にとらえ表現する力（研究３年次）

社会的事象どうしを関連づける力（研究２年次）

社会的事象について追究する意欲（研究１年次）

(2) １，２年次の研究副主題との関連

研究１年次は,生徒が社会にはたらきかけるために,まず生徒の目を社会に向けさせ，事実を正確にとらえさせるための授業の工夫に取り組んだ。

研究２年次は，目を向けた社会がどうなっているかを理解するために，社会的事象どうしを関連づける力を育成するための授業の工夫に取り組んだ。

研究３年次は，今までの研究の成果を踏まえ，社会的事象に対してのよりよい考えをもとに，はたらきかけようとする意欲を育て，それを具体的に表現する力の育成に取り組む。

(3) ３年次の研究副主題について

①「社会的事象を主体的にとらえる」とは

社会的事象を主体的にとらえるとは，社会的事象に対して自分の考えを持つことである。そのために，部報42～44号で取り組んだ研究主題の主題・副主題関連図が参考になるので確認する。

「自分の考えを持つまでの過程」

ア　社会的事象に自分から目を向ける。
イ　資料等から様々な情報を読み取る。
ウ　事象の特色や事象どうしの関連を見いだす。
エ　社会的事象の意味や意義を自分の言葉でとらえる。
オ　自分なりの選択や判断をする。
カ　自分の考えや判断を他者に伝わるように表現する。

［部報42～44号掲載 主題・副主題関連図より抜粋］

自分の考えを持つまでの過程は，部報42～44号の研究と基本的に同じである。この過程を現在の研究にあてはめると，平成24年度が**ア**，平成25年度が**イ・ウ**である。生徒が**ア**～**ウ**の過程で深めた社会認識を判断材料として，今年度は未来予測や価値判断を**エ・オ**で行って自分の考えを持ち，**カ**で自分の考えを他者に表現することとなる。

考えは人それぞれであり，現実の社会の問題や社会科で扱う社会的事象に対する見方や考え方も多様である。しかし，単なる思いつきや独断，偏見では，他者の支持や理解を得ることはできない。よりよい社会を目指すためには，「よりよい考え」を持ち，社会にはたらきかけることが必要である。

「よりよい考え」については，対象とする社会的事象により異なるが，以下のような条件が参考になる。しかし，これが絶対条件ではないので，各支部でも検討して欲しい。

○様々な資料に基づいて，社会的事象を多面的・多角的に考察した上で判断した考え
○社会全体で無駄を省くという効率の基準と，手続き・機会・結果などの公正の基準の両方を吟味した上で判断した考え

このような「よりよい考え」を生徒が持つためには，教師が「社会的事象への関心・意欲・態度」「社会的な思考・判断・表現」「資料活用の技能」「社会的事象についての知識・理解」を意図的に育成する授業を行わなければならない。生徒がある日突然「よりよい考え」を持つようになるのではなく，日常的な授業の中で，教師が４つの観点を意識した授業を行うことで，生徒が「よりよい考え」を持つようになる。

②「表現する」とは

「よりよい考え」を持つためには，他者に自分の考えを表現することが有効である。表現する際の他者の反応から，自分の考えの善し悪しに気づいたり，他者の考えと比較したりすることができる。その結果を踏まえてもう一度判断し，考えを深めることで，「よりよい考え」に近づくことができる。この活動を通して，聞く側も「よりよい考え」に近づくことになる。

しかし，生徒は「よりよい考え」を持つことができても，それを表現できないことが多い。自分の考えを的確に伝え，他者を納得させるように表現する力を育みたい。そのために，次のような力を育てたい。

○自分の考えを適切な言葉で表現する力
○より正確にわかりやすく伝えるために資料(図，写真，報告書など)を活用する力

上記の力を育むためには，言語活動の充実を図る必要がある。「読む」「話す」「書く」などの言語活動を取り入れて，プレゼンテーション，ディベート，パネルディスカッション，ロールプレイングなど，それぞれのよさを生かした学習活動を工夫したい。

他者との交流の中で「よりよい考え」を持ち，他者を納得させるように表現する力を身につけた生徒は，自分の考えに対する自信と，それを現実の社会にはたらきかけたいという意欲を持ち，表現するようになるであろう。

(4) 授業を構築する際のポイント

各学校や支部の実態に合わせて，以下の①～⑦の工夫を適宜取り入れて研究に取り組んで欲しい。下記の他にも様々な工夫が考えられる。研究の目的に迫るために様々な手立てを工夫して欲しい。

①　単元構成の工夫

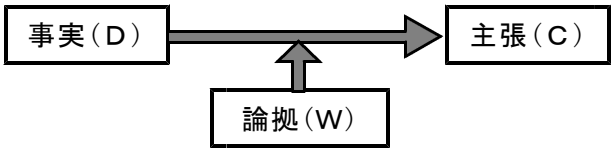
学校教育法第30条第２項では「生涯にわたり学習する基盤が培われるよう，基礎的な知識及び技能を習得させるとともに，これらを活用して課題を解決するために必要な思考力，判断力，表現力その他の能力をはぐくみ，主体的に学習に取り組む態度を養うことに，特に意を用いなければならない」と規定されている。単元を通して習得・活用を図る授業を構築するためには，単元構成を工夫する必要がある。

②　学習課題の工夫

部報46号でも，生徒が疑問を持ち，主体的に追究する学習課題の重要性が確認されている。今年度は課題を自分のものとしてとらえさせるために，切実感を持たせる学習課題も工夫したい。また①で述べたように，今年度は単元構成を工夫した授業が増えると予想されるので，単元を通したより効果的な学習課題の設定も大切である。

③　ワークシートの工夫

生徒が「よりよい考え」を持ち表現するためには，思考過程を可視化することが有効である。一例として，下図のようなトゥールミン図式が参考になる。これは，自分の**主張**（**C**=Claim）を述べるために，根拠となる**事実**（**D**=Data）を明確に示すものである。**論拠**（**W**=Warrant）は，**D**と**C**が結びつく理由を示すものである。これを利用すると，事実をもとに主張しやすくなる。



また，多面的・多角的に判断するためには，事象の関連を可視化するイメージ・マップの活用が考えられる。様々なワークシート，まとめ方を工夫したい。

④　身近な社会との関わりを重視する学習活動の工夫

身近な社会や地域の人々と実際に関わらせることで，社会の一員としての自覚を育て，社会にはたらきかけたいという意欲や地域の人々に伝える表現力を育てることになる。そのために，例えば町内会長に聞き取り調査をしたり，身近な議員に考えを提案したり，新聞に考えを投書したりする学習活動を検討したい。

⑤　ICT活用の工夫

タブレット型の情報端末を使用すれば，教室でも情報通信ネットワークを活用して，資料を収集，処理，発表することができる。自分の考えをより正確にわかりやすく伝えるために，実物投影機と電子黒板を使用すれば，作成した資料を拡大して提示することができる。「よりよい考え」を持つための資料を収集する場や，「よりよい考え」を表現する場など，様々な場面で効果的なICT活用を検討したい。

⑥　評価の工夫

自分の考えを表現した後に相互評価することで，新たな視点に気づき，「よりよい考え」に近づくことができる。生徒だけでは気づかない視点もあるので，教師が適切な評価を与えることも重要である。適切な評価について検討したい。

⑦　コーディネーターとしての教師の役割の工夫

生徒が考えを深めるためには，教師が生徒の多様な考えを引き出し，論点を整理して，生徒の考えをつなげていくコーディネーターとしての役割が重要となる。教師は日頃から生徒一人一人の学びのプロセスを把握することなどが求められる。

④で社会にはたらきかける際にも，適切な人材を見つけ，授業への参加を依頼するなど，現実の社会と生徒を結びつけるコーディネーターとしての役割が重要となる。教師自身が社会にはたらきかける力を向上させることが求められる。

《参考文献》
・「中学校学習指導要領解説社会編」文部科学省　日本文教出版
・「言語活動の充実に関する指導事例集」文部科学省　教育出版
・「新しい社会公民教師用指導書指導展開編」東京書籍
・「思考力・判断力・表現力をつける社会科授業デザイン」小原友行編著　明治図書
・「社会科固有の授業理論３０の提言」岩田一彦　明治図書
・「言語力をつける社会科授業モデル中学校編」岩田一彦・米田豊編著　明治図書
・「見方考え方を成長させる社会科授業の創造」岡崎誠司　風間書房
・「社会科教師のための言語力研究」片上宗二　風間書房

「平成２５年度福島県中学校教育研究協議会会津大会を終えて」

北会津支部長　　**澤崎　俊哉**

本年度は研究２年次，「社会的事象どうしを関連づける力を育てる授業の工夫」という副主題のもと，各支部で精力的に実践研究が展開されてまいりました。

会津大会当日は，正会員のみならず会津地区内の一般会員も協議に参加させて頂き活発な研究協議が展開されました。参加会員の皆様の率直で建設的な意見交換により，各支部の研究成果を共有することができ，今後の授業改善に繋がる貴重な指針を得ることができました。

また本大会が，県内各地の社会科教員が集い親交を深め，末永く仲間として支え合えるきっかけの一つになれましたことにこの上ない喜びを感じております。

最後になりましたが，改めて大橋誠寿県社会科専門部長様をはじめ，指導助言者の先生方，授業並びに会場を提供していただいた会津若松市立第三中学校の先生方，そして参加いただきました各支部の先生方に心より御礼申し上げご挨拶といたします。

「平成２５年度福島県中学校教育研究協議会会津大会に参加して」

須賀川市立岩瀬中学校　　**鈴木　正美**

今年の県大会は，ＮＨＫ大河ドラマ「八重の桜」でも全国から注目を浴びている歴史の町会津が開催地区でした。社会科部会にふさわしい最高の舞台ということで，私自身とても楽しみにしていました。１０月９日の大会当日は，天気もよく，何より会場校となった会津若松市立第三中学校の先生方や生徒のみなさんが元気なあいさつで快く出迎えていただきました。開会式の後，３分野の公開授業，そして分科会に分かれての研究協議が行われ，各支部の様々な取り組みや視点に沿った話し合いがなされ，充実した一日を送ることができました。

私は，公民的分野の公開授業に参加させていただきました。単元は「現代の民主政治と国の政治のしくみ」でした。会津支部では，「単元構想図」を作成して単元を構成し，単元全体の柱となる中心課題を設定していました。「少子高齢化の解決策は誰がどうやって決めるのか」を単元の課題として，「選挙」と「国会」を関連づけながら議会制民主主義や選挙の意義について考えさせ，単元の課題に迫っていくものでした。実際の授業は，導入において三中のオープンスペースでの参院選投票の様子の拡大写真から「選挙」，修学旅行の拡大した集合写真から「国会」というように，身近なところから社会的事象を捉えさせていました。そして課題追究では，オープンスペースで行われていることが何なのかをグループごとに話し合い，キャッチフレーズで表現し，代表者が演説風に発表するというものでした。「選挙」や「投票」という言葉を使わないという条件やきちんと理由も説明するということで，なかなか難易度の高いものでした。しかし，生徒は活発に意見交換し，しっかり理由付けしながら，堂々と発表していたので感心しました。副主題に迫るために，関連事項を明確にし，題材を工夫しながらより身近に事象を捉えさせたことや言語能力を身に付けさせるための班での話し合い，キャッチフレーズ作成，発表活動など今後の授業の参考になるものでした。そして何より，授業者の思いや願いが伝わってくるすばらしい授業でした。

研究協議会では，代表支部の研究発表と副主題に迫るための話し合いが行われました。福島支部からはユニークな教材を用いた授業実践，両沼支部からは，ジグソー学習を取り入れた授業実践の報告がなされました。副主題に迫るための話し合いでは，関連づける活動の組み立て方や手立ての工夫について各支部の取り組みなどもふまえて意見交換がなされ，とても深まりのある研究協議となりました。

県大会に参加させていただき，各支部の先生方の取り組まれている実践や多くの先生方と意見を交換することができ，とても有意義な機会となりました。このような機会が日々減少している中，与えていただいたこと心より感謝いたします。来年度は，研究主題３年目，仕上げの段階です。今回の経験を今後の授業実践に生かし，子どもたちの自ら学び社会にはたらきかける力の育成に努めていきたいと思います。

各支部代表の参加分科会配当表

年度	支部／分野	福島	伊達	安達	郡山	岩瀬	石川	田村	西白河	東白川	北会津	耶麻	両沼	南会津	相馬	双葉	いわき
26	地　理	○		○		○	●		○			○	○		○	○	●
	歴　史	○	○		○		○	○		●	○	○			○		●
	公　民		○	○	○	●		○	●		○		○	○		○	

●＝発表　　○＝参加　　□　＝県大会開催地区